

「晴雨計・その後」⑭

「万歳、单身生活」

平山征夫

二十四年前に仙台で考えた二
〜三年後の「单身生活」解消を
想定した我が家における私の
「地位回復」作戦は、未実行に
終わった。いずれ「終の棲家」
にと思って建てた小田急線沿線
の家は、新築直後に新潟に单身
赴任したため殆ど住むことがな
かったが、知事就任でその後も
戻ることがなかった。尤も戻っ
たとしても二人の娘は音楽家の
道を選んでヨーロッパに移住し
たため、地位回復すべき家庭は
分散してしまっていた。

知事候補に推された際、もう

暫く娘の世話で妻は家を離れら
れないと思っただので、推してく
れた人たちに、「暫く单身になる
が、单身知事でも構わないか」
と聞いた。それに尾ひれがつい
て「今度の知事は单身赴任だそ
うだ」となった。実際はほんの
暫くの間で单身解消となってい
まったのだが、いつまでもそう
思われたのには参った。「知事、
食事や洗濯、掃除はどうしてい
るのですか」と聞かれたり、中
には「何なら私がしましょうか」
と言う親切な(?)女性も現れ
て、单身ではないと説明してお
断りもした。

まだ中高生だった娘を置いて
妻がすぐ新潟に来たのには理
由があった。日銀の支店長の時

は、昼間お手伝いさんが来て公
費で家事一切をやってくれたが、
知事は私邸の家賃負担がかなり
高いうえ、お手伝いさんも当然
自己負担。そこで公邸の掃除等
を請け負っている業者に見積も
って貰ったら、私邸もかなり広
いので結構な料金になって仕舞
うことが分かった。もっと困っ
たのは買い物で、秘書は「三越
の外商を呼んでください」と言
うがそれもゆかず、妻に来ても
らわないと生活が回らないこと
が分かったからだ。妻には言わ
なかったが、知事になったため
单身を謳歌する自由がなくなっ
てしまい、单身を楽しむことが
出来なくなったことが一番の理
由だ。ついでの感想だが、知事

由があった。日銀の支店長の時

を退任した時には「これであの
広い知事公舎の私邸の掃除をし
なくて済む」と思ってた。ほっとし
た。
七十歳を過ぎた現在は、知事
退任から十二年が経って、バス
に乗っても、三越に行っても、
映画を観に行っても、特別な目
で見ると人はもう殆どいない。軽
く会釈する人が時折いるくらい
だ。单身の自由は復活したのだ
が、二十四年前のようにそれを
秘かに楽しもうという気力はあ
まりない。それよりも妻には私
より一日でも良いから長生きし
て貰いたいと願っている。人生
の最後で单身生活はしたくない
と心から願っている。

(平成二十八年十月二十五日)



カット・工藤倫弘

仙台に赴任して、早三カ月が過ぎた。この間、挨拶回りなどで多くの人から「单身ですか。大変ですね」と同情された。確かに新潟の三年に引き続く单身生活であり、世間的には十分同情に価するのである。せつかく同情して下さい(ことだし、それに「いいえ、そんなことありません」などというと変に夫婦仲を疑われかねないので、「え

随 想

万歳、单身生活

平山征夫

え、でも慣れましたので…」と言っているが、実は私の場合单身生活はさほど苦痛ではなく、むしろ、内心では单身生活を小さな不便、大きな自由、などと

言っている。山ある(ただ、執着心に欠ける

巨人を叩くのをテレビで見ようか

あり、その生活に時限があるからではなかろうかと…。そして、いつまでも单身生活の気楽さを謳歌していると、すっかり女房に支配された家庭内のわが権力は取り戻せなくなるぞ(現に、お前の洋服ダンスは背広の二着分のスペースを残して完全に支配されているではないか…)。これからは、もう少し週末には帰って单身疲れした顔で同情を買い、徐々に権力の回復を図っていかうと…。

ている。

血液型でもあるため、どれも幅広く浅く終わってしまうが…)

身に戻ったような自由な気分になる(ただ、札所巡りとか、温泉と言った老人じみたことは考えないようになっているが…)。

さう、こんなことを考えながら、私が仙台の单身生活を送っていることは、女房には内緒です。よろしく！

明らか世の中には生まれながら单身向きの人と全くそうでない人というように思う。私は前者である。私からみると毎週のように金曜日の夕方になると洗濯もの入ったポストンバツ

気が多い人間である。だから、女房殿の愚痴を聞く時間や、退屈な買い物に付き合う時間を自分の時間に使える单身生活は大変ありがたい。週末はゴルフに

しかし、ここまで書いてハッと思った。自分は单身向きだと思っっているのも所詮は強がりです。

(日銀仙台支店長)